



発行 公益社団法人
武蔵野市シルバー人材センター
編集 広報編集委員会
武蔵野市中町 3-5-16
電話 0422-55-1231 (代)
URL <http://www.musashino-sc.or.jp/>

208(春)号 もくじ

■平成30年度のスタートにあたって	1
■健康フェスタ	2
■就業の思い出、職員あいさつ	3
■武蔵野・ぶらり・時空旅	4～6
■むさしのSCトピックス	6
■私のふるさと	7
■ひろば、新入会員紹介、お亡くなりになった方、編集後記	8

平成30年度のスタートにあたって

事務局長 中村 義明

会員皆様におかれましては、日頃より、就業並びに地域活動にご精励いただいていることと感謝申し上げます。

さて、去る2月22日の理事会において、第四期中期目標【2018年度～2022年度】、平成30年度事業計画・収支予算が承認され、会員の皆様にお届けしました中期目標及び30年度事業計画・収支予算について、ご紹介いたします。

～第四期中期目標【2018年度～2022年度】～

第四期中期目標を作成するにあたっては、前段として、第三期中期目標で掲げた目標に対する達成度を評価するとともに、今後の課題について検討し、第三期中期目標の総括としてまとめました。これを基に、第四期中期目標では、「魅力あるシルバー人材センターを目指して一元気に、明るく、楽しく」をスローガンとし、「魅力あるセンターづくり」、「就業先拡大」、「会員の増強」を3大目標として取り組んでいくこととしました。

この3大目標を達成するために、数値目標について各年度の期別目標を設定し、目標達成に向けての進捗管理をしやすいとともに、SC魅力化委員会の新設をはじめとした部会・委員会の整理統合を行い、その任務と役割を明確化しました。

第三期では、10の重点目標を設定し、重点目標ごとに5～9の対策を設定したことから、取り組み対象が多岐にわたり、また、対応する部会・委員会や優先順位が明示されていなかったことから、対策への取り組みが不十分なものや手付かずのものがありませんでした。

このことから、今期中期目標では、施策の数を絞り込むとともに、施策への対応組織を明確にし、各組

織の具体的対応を設定することで、目標達成に向けた施策の検討・実施と、その進捗管理を確実に進めていくこととしました。

～平成30年度事業計画～

次に、平成30年度の事業計画ですが、前段で述べた第四期中期目標の初年度であることから、Ⅲの1の(2)「2018年度期別目標」を数値目標とし、Ⅲの3の(2)「各組織の具体的対応」の中から、各部会・委員会別に取り組む内容を3項目に絞り検討・実施していくこととしました。

また、あいまいだった進捗管理について、統一した進捗管理表（仮称）などを用いることにより、明確化することとしました。

なお、今年度より、会員参加の委員会として体制を整備まいりますので、皆様の参加をお待ちしております。

～平成30年度収支予算～

平成30年度収支予算については、昨年度と比べ、経常収益では、769千円の減となりました。

主な理由は、事業収益を中期目標のとおり5,000千円増の385,000千円としたものの、受取補助金等において、福祉家事援助設置助成金の助成期間が終了したことなどにより5,769千円の減となったことです。

経常費用では、昨年度と比べ、2,172千円の減となりました。

主な理由は、職員の入れ替わりによる人件費の減と、40周年記念誌作成のために昨年度増とした印刷製本費を例年程度に減じたことなどです。

この結果、平成30年度収支予算は、収支ともに452,558千円となり、収支相償の予算となりました。

本年度も経費の節減に努め、収支相償を達成していきたいと考えておりますので、会員の皆様には、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



設立40周年記念
公益社団法人武蔵野市シルバー人材センター

健康フェスタ



平成29年1月に、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センターは設立40周年を迎え、記念行事として平成30年2月9日に、武蔵境駅北口の武蔵野スイングホールにて「記念式典・健康フェスタ」が、総務部会長・安達理事の司会のもと開催されました。会員の皆様、ご家族の方、市民の方など計135名の方のご参加をいただきました。

1. 設立40周年式典

加藤会長の開会のあいさつから始まり、松下武蔵野市長、本間武蔵野市議会議長、鈴木都議よりご祝辞をいただきました。

2. 健康講話 — 大塚製薬

テーマ「毎日元気に過ごそう」・高齢者の食について・冬の体調管理

健康寿命を延ばすためには …

○健康のための基本は「食事」です

○シニア世代は低栄養に注意です → 適正な体重に気を付けましょう

○できるだけ多種類の食品を意識しましょう、主食3：主菜1：副菜2 の割合に

主菜のお肉・お魚・たまご・大豆製品などのたんぱく質は、1日に60g目安で摂りましょう

○冬でも水分はこまめに摂りましょう、食欲がない時などはゼリーも利用しましょう



3. 健康体操 — ヘルシーライフプロジェクト

椅子に座ったままでできる簡単体操

手を高くあげたり、負けるじゃんけんなどを教えていただきました。またこの体操をするときは、つま先を上げながら行くと、ふくらはぎの筋肉の運動にもなり、チョットした段差のつまずき予防や、血液の循環を促し、循環器系の病気の予防にもなる、とのお話でした。

体操はくれぐれも無理はせず、ご自身の体力や体調に合わせ、痛い、おかしいと感じたら、すぐに止めましょう。



4. 健康漫才 — 林家ライス・カレー子

林家ライス様におかれましては、平成30年2月24日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

民謡「会津磐梯山」の出囃子にのって登場し、健康漫才の範囲にとどまらない話題で、さすが昭和の爆笑王の弟子と思われる、息の合った夫婦漫才でした。

会員さんからは…○初めて生で漫才を見ました。声の調子や身振り手振りで迫力がありました

○こんなに笑ったのは久しぶりです

との声をいただきました



5. 田中副会長の閉会のあいさつがあり、ご参加の皆様への感謝が述べられました

月末月初の喫茶コーナーで、健康フェスタの映像を流す予定です。お楽しみに！

就業の思い出 密やかなよろこび

吉祥寺北町 谷家 雅子

家事援助でご尽力をいただいている会員さんに就業を始めた当時の思い出を伺いました。

今日も夕方から、共働きの両親に代わり、小学二年生の女の子を、学童クラブへ迎えに行く。還暦を機に、シルバー人材センターに登録し、『子育て支援』を希望。就業始めて早や四年。最初の仕事は、4才の女の子を保育園に迎えに行き、夕食作りとパパが帰る迄の見守りであった。今迄も何人かの保育ママが交代で見ていたせいか、初対面の私をすんなり受け入れてくれたようで、帰り支度もスムーズに出来た。冷やりとした夕暮れの中、暖かくやんわりとした手をしっかりつなぎ家路を急ぐ。健気に見えた彼女が、急に『おんぶして』と私の顔を見上げた。緊張が解け、疲れが出たのか甘えてくれてとっても嬉しかった。そして安堵した。その夜のオムライスには、ケチャップでかわいい彼女の名前を書いた。

次のお宅では、保育園児と小学一、二年の三兄弟の夕食作り、時計を頻繁に見ながら、賑やかな声を背に受けて献立をこなす。嗅覚は敏感に反応し、「味見させて」と一人がやってくる。連なって、「僕も僕も」と。まるで顔より大きい口をあけて、母親のエサを待つツバメのように。おかしくもあり、かわいくもあり、仕事の重責と喜びを感じる瞬間であった。こんな楽しい思い出をたくさん残してくれた二家族は時を同じくしてそれぞれの地に引越された。

ほどなくして現在の依頼が舞い込んだ。やはり、下校時から両親が帰宅するまでの見守り。その日は、他の子供の迎えで慣れていたせいもあり、気軽な気分で

学童クラブへ向かった。あにはからんや、無愛想な顔で私を見るなり隠れてしまった。何か不都合でも…それとも私が嫌いなのか。だんだん不安になり、ただじっと待っていると、間もなく彼女はやってきて、黙ってせんたく物の入った袋を突き出した。靴をはくやいなや、そのまま校門に向かってサッサと一人で行ってしまった。様子を見ながら、そっと後からついて行った。どうしよう、途方にくれた。

今、当時のことをつらつら振り返るに、初めての人に接する不安と戸惑いから、彼女もまた、きっと早くその場を逃げ出したかったにちがいない…。今更ながら気づかされ、申し訳なく、不勉強さを恥じる。しかし、このような諸々の経験が明日への実践に生かされることを信じたい。心身の成長はめざましく、彼女の一言に落ちこんだり、感動したり、叱ったり。時には、チェスやトランプ、はたまた相撲に、かけっこ、剣玉にと、真剣勝負でやってくる。これら一つ一つの対応にも、なかなかの体力、気力のゆとりと知恵が必要だ。

時に私が失敗し「だっておばあちゃんだもの」と逃げ込むと、「おばあちゃんじゃない、大大大おばあちゃんだ」ときりこむ。「ドキッ」私を笑わしてくれる利発なお嬢さんである。ピカピカのやわらかい双葉が日に日に色濃く変化する過程を、ほんのわずかな時間でも間近に見せていただく『よろこび』。今、しみじみかみしめている。笑顔の親子に見送られ、心地よい疲れを乗せながら、今宵もペダルふむ婆である。

職員あいさつ

下川 保

このたび3月末をもって、シルバー人材センターを離れることになりました。在籍中はいたらぬ点もあったかと思いますが、お世話になりました。業務を通じて壁にあたることもありましたが、多くのことを学ばさせていただきました。今後もセンターで培った経験を活かして行きたいと思っております。12年間ご指導いただき誠にありがとうございました。

吉野 三次

平成24年4月から安全管理と適正就業を担当させていただく事になりました。安全管理では事故件数の減少を、適正就業では会員の方の仕事のご紹介に努めてきましたが、難しい課題が山積みです。今後とも皆様のご協力をお願いします。

西川 かおる

平成18年8月からの派遣社員期間を含めて、12年間お世話になりました。振り返りますと、いつも皆様に迷惑をかけ続けていた気がします。そんな私をいつも助けてくださり、ご指導や協力をいただき、感謝の気持ちで一杯です。今後の皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈りしております。ありがとうございました。

武蔵野・ぶらり・時空旅

14

吉祥寺北町 下谷 一廣

☆甲武鉄道（現・中央線） パート3

今回は少し間が開いてしまいましたが、甲武鉄道PART2でお約束した

- ①甲武鉄道（現中央線）路線決定までの秘話、特になぜ大久保駅から立川駅まで24.1Kmが一直線になったのか
 - ②吉祥寺駅、境駅（現武蔵境駅）はなぜ現在の場所に出来たのか
- この二つを主題として書き進めたい。

☆敷設路線決定までの経緯

甲武鉄道が開業したのは明治22年だがその約6年前から東京西部と新宿間を結ぶ鉄道路線計画案が東京府に申請された。（当然最初は馬車鉄道での申請）「甲武鉄道歴史地図」を再掲したのでご覧になっていただければお分かりのようにいくつもの計画が提案された。最初に計画されたのは羽村から新宿で玉川上水沿いの路線計画であったが、この案は東京府に上水を汚濁するとして一蹴されたのはPART2で書いたとおりである。

他に主だった計画としては甲州街道沿い、青梅街道沿い、その両街道の間を走らせる案などがあった。

では何故街道沿いの計画が成立しなかったのか？

なんといっても一番の原因は街道沿いに暮らす住民の反対運動であった。

甲武鉄道の発案者でもあり仕掛け人だった岩田作兵衛、雨宮敬次郎（後に私鉄王と呼ばれた）はこの反対運動に頭を悩ませていた。

彼らの思惑としては出来れば甲州街道沿いに次善策としての青梅街道沿いに鉄道が敷設できれば経営的にもメリットがあると考えていた。

だが甲州街道の調布は江戸時代から五宿と呼ばれる宿場町であり他にも高井戸宿があり鉄道が敷設されれば、壊滅的な打撃を受けるとして反対運動が盛んであった。また街道沿いの農家も煤煙や騒音で畜産にも農作物にも

大きな被害が出るといった理由で猛烈な反発があった。青梅街道も同様で、八王子近郊で作られた安価な野菜が鉄道で運ばれば生活が成り立たないといった陳情を繰り返した。最近になってそういった反対運動はなかったとの声があるが、中央線沿線の著しい発展を目の当たりにして、自分たちの先祖の先見性の無さを糊塗し庇いだてているように見えるが如何でしょうか？

住民の反対で鉄道敷設は頓挫を余儀なくされていたが、岩田・雨宮両氏は“なにがなんでも開業させる”との意志は固く街道沿いの路線を断腸の思いで諦め、集落が少なく反対意見の少ないところを選ぶしかないと結論に達する。関係者が集まり喧々囂々の議論の続く中、鉄道局の青年技師・仙石貢（後の鉄道大臣、南満州鉄道総裁）が「どうせなら速度も出て、燃料も少なくて済む一直線の線路を敷くのが効率的で都合が良い」と発言。

これを聞いた岩田作兵衛は「それがいい。候補の一直線路線の案を持って来い」と冗談交じりに言って、仙石に指示する。仙石はやけ気味に定規を持って、地図の上の中野～立川間のところに「一直線の赤い線」をぐっと引いた。周りにいた社員たちは呆然として地図と仙石の顔を見比べた。というエピソードが旧国鉄内の伝承話として残っている。その後の仙石にまつわる人物像からありそうな話ではあるが……。

実情は、反対運動がある一方で鉄道敷設を積極的に



甲武鉄道歴史地図

誘致しようとする人々も存在したのである。立川村の板谷元右衛門、砂川村の砂川源五右衛門、武蔵野の4カ村の名主たち、境村の秋本喜七などである。

こういった協力的な有力者たちの村々をつないでみると一直線になる。

この案は経営的に多くの乗客が見込めるわけではないが、そのかわり路線上に集落も少なく原野と桑畑が広がっているだけで土地の買収もスムーズに進みそうであった。鉄道開業を急ぐ会社はなりふり構わず、畑地は時価の4倍、山林は時価の10倍といった値をつけ買収していった。吉祥寺村では時価の約10倍を支払い用地買収を進めたのでトラブルはほとんど起こらずんなりと立ち退きに応じたといわれる。

☆吉祥寺駅、境駅（現・武蔵境駅）はなぜあの場所なのか？

中央線の駅をどの場所に開設するかを巡っては新宿・中野・境（武蔵境）・国分寺・立川すべての駅で様々な思惑や利権がからみ紛糾した。

まず甲武鉄道開業と同時に開設された境駅（現武蔵境駅）がなぜ現在の場所に開設されたのかを当時の資料を基に考察する。お手元に武蔵野市の地図があればそれを広げて見ていただきたい。

当初の駅開設予定地は現在の三鷹駅の西側にある列車引き込み線の辺り、番地でいえば上連雀一丁目と三丁目の間であった。近隣八カ村の意見をまとめ秋元瀬平が代表者として会社（甲武鉄道）に駅設置の請願書が出されておりほぼ確定といった状況であった。しかし何としても自分の地所に停車場を開設しようと境村の地主・秋本喜七（27歳）が思い切った行動に出た。

現在の武蔵境駅周辺の土地所有者に根回しをした上で、夕刻に境村を出立し当時湯島天神下にあった甲武鉄道本社まで提灯を片手に20kmを歩き通した。夜が明けたばかりの会社にはたまたま社長の岩田作兵衛がいた。その熱意と大胆な提案（停車場に必要な土地の無償提供と田無までの馬車鉄道の敷設）に心を動かされた岩田作兵衛は喜七の案を採用することとなる。結果、新駅は連雀駅とならず境駅となった。このことを伝え聞いた秋元瀬平らは驚き、再度の請願書を提出するも採用されることはなかった。請願の順序からも、立地条件からも連雀駅成立に絶対の自信があつて高をくくっていたのかもしれない。

実父である渡邊萬助の反対も押し切ったといわれる、秋本喜七の強引とも思えるこの誘致活動は親類縁者からも怒りを買い、三鷹・野崎村の名家吉野泰三の書院二階に約半年にわたり隠れたというエピソードがある。（吉野ゆきさんの話として三鷹の歴史に記載）しかしその後秋本喜七は東京府会議員、衆議院議員、田無銀行頭取などを歴任したところをみれば、機を見るに敏で腕力もあったといえよう。

もし連雀駅が成立していれば三鷹駅はできなかったと思われるが……。

吉祥寺駅については先日「ブラタモリ・吉祥寺」で吉祥寺村開村の時から続く名家、安藤家の御当主（安藤孝氏）が話されていた通り現在の駅より東寄りの五日市街道と交差する辺り、番地でいえば南町2丁目と東町3丁目の境が予定されていたが所有者の反対もあつて今の場所になったという。現在の吉祥寺駅からは想像もできないが明治32年当時その辺りには桑畑が広がっていたという。



吉祥寺停車場の貨物（武蔵野市・明治末頃）

土地の所有者は月窓寺・蓮乗寺・光専寺だった。停車場のために土地を提供したわけだが駅周辺の土地はお寺の所有のままだった。このご利益が100年以上経った今でも続いているようで宗教法人所得番付でもこの三つの寺は驚くほど上位にランクインしている。

＊参考資料：「中央線誕生」中村建治著 交通新聞社、
「日本鉄道史」幕末・明治篇 老川慶喜著 中公新書、「武蔵野市史」、「三鷹の歴史」穴戸幸七著



乗合馬車(武蔵野市・大正初期)
武蔵境⇔田無間を走った

むさしのSCトピックス

- 1/4 武蔵野市長へ新年のあいさつに伺いました
- 2/9 設立40周年記念事業として、記念式典と健康フェスタを武蔵境のスイングホールにて行いました
- 2/19 認知症サポーター養成講座を開催しました
- 2/15 会員さん向けの料理講習会を開催しました
- 2/20 シルバー人材センターへ未入会の方を対象に、ハウスクリーニングの体験講習会を開催しました。
- 2/25 東京大マラソン祭り2018のボランティア活動に参加しました。今年は東京日本橋タワー周辺にて行いました。
- 2/26 武蔵野市教育企画で市内の小学校への雑巾の寄贈を行いました。



市長への新年のあいさつ



健康漫才
(林家ライス・カレー子様)



料理講習会
手順を確認しながら調理します



料理講習会



ハウスクリーニング体験講習会



雑巾寄贈式で目録を渡しました

私のふるさと 番外編

——第16回——

吉祥寺北町 しげよし 小倉成美会員

★小倉さんは92歳、当センターの最長老である。父君の仕事の関係で各地を転々とした。それゆえ、たくさんのふるさとを持っているとも言えるし、ふるさとは無いとも言える。そんな大先輩のお話を伺ってみよう。

●私は大正最後の年の15年9月4日、中国の旅順で4人兄弟の三男として誕生しました。この年の12月25日に元号が昭和に変わりました。

★遼東半島先端の町である旅順は、小倉さんが生まれた当時、日本陸軍が編成した関東軍の司令部が置かれ、その港は日本海軍の要港部になっていた。下関条約で清国から割譲されたものの、ロシアに奪われたこの町を、日露戦争の勝利によって奪還したからである。

●父が海軍士官だったため、一家は旅順に住んでいたのですが、幼少期に父の転勤で横須賀へ移りました。まだ幼児だったため旅順の記憶はありません。子どもの頃の記憶は横須賀から始まります。

★横須賀は昔も今も軍港である。現在の海上自衛隊基地と米海軍基地が、日本海軍の基地だった。

●私が横須賀に移ったのは3歳の時でした。旅順では官舎住まいだったらしいのですが、横須賀では港を見下ろす斜面に点在する家を、一軒借りていました。幼稚園には坂を下って通いました。家の周囲は斜面のため原っぱというものがなく、遊びはもっぱら室内でした。このころ、父が兄弟全員に剣道の道具を買ってくれましたが先生はいません。父がごくたまに教えてくれました。

●父はいつも海の上で、家にいるのは正月を除くと年に2、3日でした。ですから海水浴も母が兄弟4人を連れて行ってくれました。歩いて行きましたが、そんなに遠くまで歩いたという記憶はありません。当時の横須賀の海は、漂流物こそありましたが水は澄んでいました。

●横須賀で小学校に入学したものの、通ったのは1学期だけで、夏に大田区久が原に転居しました。父が家を建てたのです。周りは畑が多く、ご近所さんは農家が多かったように思います。家は久が原小学校のすぐ近くでしたが、小学校は田園調布まで30分歩いて通いました。遠くの小学校に転校したのは、父の「教育的配慮」でした。海軍士官である父は、

家庭内でもイギリス式で、子どもの頃からナイフとフォークの食事は当たり前でした。食事中に床に落とした食べ物を拾おうとすると、父に厳しく叱責されました。そんな物は従者に拾わせろというわけです。イギリス海軍は貴族の集団ですが、日本海軍の日常マナーもイギリス海軍を倣っていました。もっとも我が家に従者などいませんから、子どもたちが落とした食べ物は、後に母が拾っていました。

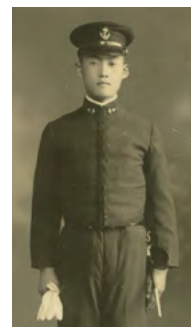
家の周りは畑ばかりで、遊び場は家と田園調布の間にある慈恵医科大予科の広いグラウンドでした。近所の子どもたちが立ち入っても叱られることはありませんでした。

★小学校5年生になって、小倉少年は大森まで剣道を習いに通うことになる。現在まで80年以上続く剣道人生の始まりである。その後、学習院中等科へ進学。剣道部に入部し初段を獲得した。そして中学5年の12月1日に、広島県江田島にある海軍兵学校へ入学した。

●兄2人も海軍軍人への道を歩んでいましたから、江田島行きは自然のなりゆきでした。ここでも武道は剣道を専攻しました。3年生の夏、広島市内に原爆が落ちました。遠く離れた江田島でも爆風で学校のガラスが揺れ、キノコ雲は風に乗って頭上までやってきました。そして8月15日を迎えます。在学中に終戦になったので、同期生で戦死した人は一人もいません。ただ次男の兄はフィリピン沖で戦死しました。20歳でした。今は靖国神社に祀られています。

★終戦後、学習院高等科に復学した小倉さんは、京都大学理学部物理学科に入学。原子核物理学専攻。卒業後は三菱電機入社。原子力一筋の道を歩みながら、剣道も続けた。「全三井・全三菱親善剣道大会」は今年で43回目だが、最年長剣士として出場の予定である。

(聞き手 遠藤)



海軍兵学校



全国三菱武道大会

ひろば

二度の病を乗り越える

以前父がシルバー人材センターの仕事をしていたので興味が有り、退職後の平成14年6月に入会しました。

今までに大きな病気もせず医者いらずの身体には自信が有りましたが、ちょうど70歳の健康診断を受けた際に、レントゲンに影が映り肺癌の疑いがあると言われ、紹介された日本赤十字病院で検査入院した結果、肺癌と診断されました。

もちろん、若い時からこの日まで吸っていたたばこをきっぱり辞めました。4月の末に肺の左上葉部切除の手術をして4分の1を切り取りました。抗がん剤治療を繰り返して良くなったと思っていたら、今度は微熱がでて肺に膿が溜まり肺膿胸手術をしました。やっとの事で年末には退院でき、お正月は我が家で過ごすことができ嬉しかったです。その後、定期的に病院に行き5年たちますが、再発は今のところ無いのでひと安心しています。

今度は癌とは別に、昨年2月ごろから足と股関節に痛みがでて日本赤十字病院整形外科で診察を受けた結果、変形性股関節症と診断され、これから先、軟骨が擦り減って痛みや骨折で寝たきりになる恐れがあると診断され、まだまだ早い段階でしたが手術をする決断をしました。

その年の7月19日右足を、一週間後に左足の手術をして8月9日（23日間）で退院しました。ビックリしたのは手術の翌日からリハビリを開始したのです。入院で足の筋肉が落ちてしまったので、今でも近くの病院でリハビリを続けています。9月より仕事に復帰できるまでに回復できました。

皆さまにお伝えしたいのは、きちんと健康診断を受け異常があれば早めに受診し治療をすること。年齢が上がるほど治療が大変になると同時に回復が遅くなりますので、早めの対応をお勧めします。これから先、自分も含めて。

(B.C.)

編集後記

シルバー人材センターの設立は昭和53年。今年で40周年の佳節を迎えた。昨年夏より40周年記念式典や健康フェスタ、記念誌編集などの委員会が発足し、準備が始まった。その結果、2月には記念式典を開催、3月には記念誌発行と行事が済んだ。

4月は新年度のスタート。これまで諸先輩が培ってきたセンターの歴史の礎を、更に発展させていかねばならない。それには会員の皆様のご協力が無ければ実現できない。「絆」もこれを応援したい。また、地域と繋がるセンターでありたい。身近な出来事や、就業中のご意見などの投稿を掲載し、全会員が繋がる「絆」を目指したい。それが50周年、60周年へと繋がっていくことを確信している。

(伏野)